



## 今年の夏は浴衣で粋に！



◇日本の夏を彩る浴衣…関西は色鮮やかに、関東は藍地が主流。

浴衣は、平安時代の貴族がお風呂上がりに汗を拭き取った、湯帷子（ゆかたびら）が由来。庶民に広がったのは江戸の元禄時代。メダカの日や小菊の紋など、彩り鮮やかに染めた浴衣が夏祭りや花見のおしゃれ着に大流行。役者がしゃれた柄を競い合い、まさに浴衣文化が華開きます。これがいわゆる「東京染め」。現代でも東京の浴衣の主流は、「藍と白のキリリとした染め」。



これに対抗して、大阪立売堀の染め問屋が開発したのが「注染」と呼ばれる「大阪染め」。今でも、浴衣染めのほとんどがこの染め方で染められています。美しい水で様々な色に鮮やかに染められる関西の浴衣は、赤や黄色など多色を使い、デザインも実に自由。

◇浴衣を粋に切るコツは。

元々お風呂上がりに着る浴衣。薄い浴衣下着の上に気軽に羽織ります。電車で遠出の時には、和装ブラジャーをしても良いですね。洋服用のブラジャーは着崩れるので御法度。襟をぐんと後ろに抜いて粋に着こなして下さい。着物のおしゃれは襟元。髪はアップにして襟元を見せませす。といっても、晴れ着を着る時のようなアップは不釣り合いです。ポニーテールにしたり、クルクルまいて大きなピンでとめる程度の方が似合います。お化粧は、派手な色は避けてナチュラル系に。お風呂上がりのようなすっきりした感じの方が粋です。

髪もお化粧も、浴衣を着る前に整えましょうね。

◇大人の粋に仕上がる「貝の口」

浴衣帯は半幅帯。蝶々結びが多い中、貝の口は大人の粋な結び方。細い帯締めを締めれば紬の着物にも合わせられる、とっても便利な帯結びです。



1. 手先の幅を二つ折にして、手の長さ分（帯幅×3を目安に）を残して胸に二巻きする。

2. たれの長さを結び目をつくる位置から手先と同じ寸法にはかって結ぶ。多い分は折り込んでから結ぶ。

3. たれを斜め下の手のある方に折り上げる。

4. 手先を折られたたれの中に折り込んで出来上がり。

◇華やかな風情になる「花の矢結び」

蝶々の変形。ビビッドな帯にはぴったりの結び方です。これも、紬や小紋の着物に細い帯締めをすれば、ちょっとしたパーティーにも行けそうですね。



1. 手先の幅を二つ折りにして、手の長さを60～70cmとり、胸に二巻きする。たれを上結び、夕し先を長めに残して（50cmくらい）引き抜いておく。

2. たれを片方に「<」の字型になるように折り曲げる。

3. 手先を折り曲げたたれの中に差し込むようにして入れる。

4. リボンと同じ要領でギュッと結べば出来上がり。